（様式第１号）

■　会議録　　□　会議要旨

会議の名称	令和５年度第２回芦屋市青少年問題協議会
日　　時	令和５年８月１８日（木）午後２時～午後４時
場　　所	芦屋市役所北館４階　教育委員会室（オンラインとの併用）
出　席　者	委員　渡部　昭男　（大阪成蹊大学　特別招聘教授） 委員　山下　晃一　（神戸大学大学院　教授） 委員　入江　祝栄　（芦屋市青少年育成愛護委員会　会長） 委員　進藤　昌子　（芦屋市保護司会） 委員　平井　恭子　（芦屋市ＰＴＡ協議会　副会長） 委員　竹内　安幸　（芦屋市自治会連合会） 委員　山田　佐知　（芦屋市民生児童委員協議会　主任児童委員） 委員　中谷　洋美　（市民公募委員） 委員　大石　健二　（芦屋市立潮見中学校　校長） 委員　谷　憲太郎　（芦屋警察署生活安全課　課長） 委員　田嶋　修　（芦屋市教育委員会　教育部社会教育室長）
欠　席　者	委員　大川　啓子　（芦屋市子ども会連絡協議会　常任理事）
事　務　局	芦屋市教育長　福岡　憲助 青少年愛護センター所長　富田　泰起 青少年愛護センター所長代理　花尾　廣隆 青少年愛護センター所長補佐　中嶌　健太
会議の公開	■　公開
傍 聴 者 数	０人

１　会議次第

⑴ 開会挨拶

⑵ 議事

第３期芦屋市子ども・若者計画（令和７年度～）について（教育委員会　青少年愛護センター）

２　提出資料

⑴ 次第　令和５年度第２回芦屋市青少年問題協議会

⑵ 資料１　子供・若者育成支援推進大綱概要

⑶ 資料２　子ども・若者計画　第１期、第２期の比較

⑷ 資料３　アンケート内容（修正案）

⑸ こども未来戦略方針ＭＡＰ

⑹ こども未来戦略方針

３　審議内容

事務局花尾　本日はご多忙の中、令和５年度第２回芦屋市青少年問題協議会にご出席いただきありがとうございます。なお今回もオンラインと併用して開催しておりますので、ご理解ご協力よろしくお願いします。私は、議事に入るまでの進行をさせていただきます、青少年愛護センターの花尾でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより令和５年度第２回芦屋市青少年問題協議会を開催いたします。

この協議会は、地方青少年問題協議会法及び芦屋市青少年問題協議会条例に基づき、開催するものです。

また、この会議の定足数は、芦屋市青少年問題協議会条例第６条により、委員の半数となっております。本日は、大川委員から欠席の連絡をいただいており、残り 11 名出席となりますので、本会議は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、渡部会長からご挨拶お願いいたします。

渡部会長　皆さん、こんにちは。本日は委員の皆様任期の最後にあたるということで、忌憚のないご意見を頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局花尾　ありがとうございました。協議会の進め方について説明させていただきます。芦屋市情報公開条例第 19 条の規定に基づき、この協議会を原則公開にしたいと思います。なお、非公開情報が含まれる場合や、公開することにより、公正または円滑な審議ができない場合は非公開とすることができます。その際は、ご発言の前にお申し出ください。本日は傍聴の方はいらっしゃいません。

ここからは渡部会長、司会進行よろしくお願いいたします。

渡部会長　それでは議事の１、第３期芦屋市子ども・若者計画（令和７年度～）について、事務局から資料の説明をお願いいたします。

事務局富田　（資料説明）

渡部会長　それでは、私の方から追加しました資料について説明させていただきます。「こども未来戦略方針」と「こども未来戦略方針ＭＡＰ」というものです。ご承知のように、昨年の出生数が８０万人だったということで、「異次元の少子化対策」が大きくテーマに挙がってきております。予想よりも８年早いペースで少子化が進んでいて、７年後の「2030 年が少子化対策の分水嶺」になるということです。それを越えますと、日本の若者の人口は倍速で急激に減っていきます。残り６、７年間の間に、この少子化傾向を反転できるかどうかということで、この未来戦略が検討されました。

まず、第１のポイントは、子育てに向かおうとする若い世代、そういう人達の経済成長の実現ということで、経済的な基盤をしっかり確保して、少子化に対応していく。経済成長の実現と少子化対策を「車の両輪」として、若者・子育て世代の所得を伸ばすとなっています。

第２のポイントは、これから数年間の施策で、ＯＥＣＤトップのスウェーデンに達する水準で、こども一人当たりの家族関係支出も増やしていく。残された時間が６、７年しかありませんので、スピード感を持ってやっていこうということです。

少子化対策「加速化プラン」を見ていきますと、①若い世代の所得を増やすということで、児童手当の問題、高等教育の授業料の減免であるとか、授業料後払い制度、それから、現在は出産育児一時金が 42 万円ですけれども、50 万円に引き上げる。2026 年度からは出産費用の保険適用などを進めていく。働く子育て世帯の収入増ということで、年収の壁と言われてるものについて対策を取ることや、週20時間未満のパートやフリーランスの方についても、不利益がないような形で充実していく。さらには、住宅問題についても手を打とうということですね。

こういった経済的な支援だけではなく、②社会全体で子育てを進めていく構造や意識を変えるということで、育休を取りやすい職場にしていったり、育休制度の抜本的拡充というようなことが挙がっております。

最後は、③全てのこども・子育て世帯を、ライフステージに応じて切れ目なく支援。切れ目なく支援というのは、「こども基本法」の中に出てくる文章でもあるわけです。

それを図にしたのが、「こども未来戦略方針ＭＡＰ」です。最初が、妊娠という形になっておりますけれども、結婚してというところは問わない形で、妊娠から入っているというところが大きな特徴です。

妊娠したら、伴走型の相談支援がスタートして、それで出産、産後ケアという部分があって、出産育児一時金で、児童手当を引き上げたり、自営業・フリーランスの不利益を軽減したり、男性の育休取得を促進したり、住宅支援があったり、時短給付、それから、今までは保育に欠ける子ども達が保育所を利用していましたが、こども誰でも通園制度という形で広げていこうとか。

あと、看護休暇、小学校入学以降については放課後児童クラブ、医療費の負担軽減、中学校入学以降高校まで児童手当を延長して、高校はもちろん授業料無償となりますけれども、さらに大学、大学院等についても支援をしていこうということです。

このような大きな川の流れのようなものが各自治体で作れるかどうかというところに、今差し掛かっているということです。

それでは、事務局から用意していただきました２つの資料と、私の方で補いました、こども未来戦略方針について、どのようなことからでも結構です。質問とかご意見ございましたらお願いいたします。

まず、私の方から一点よろしいでしょうか。今、私達が第３期の計画を作ろうとしているのは、事務局から説明がありましたように、子供・若者育成支援推進大綱に基づいております。自治体は、この他にも、子ども・子育て支援事業計画、子どもの貧困対策計画ということで、様々な計画を策定しなければならないという義務もありますので、自治体によっては、３つ全ての計画をトータルプランのような形で示しているところもあるわけですね。

芦屋市で、子ども・若者計画がスタートしたときは、トータルプランというものを意識されずに第１期計画が作られました。第２期計画のときもトータルプランというのは全国的にもまだそれほど進んでいなかったんです。第２期計画から今回、第３期計画に向かうにあたっては、こども家庭庁ができたり、「こども基本法」が施行されたり、ということもあって、計画はもちろん作る必要があるんですが、第３期の計画を芦屋市としてトータルプランのような形で策定されるのか、今までのようにいくつか並行して走っている計画として走らせるのか、それがいつ頃どこで議論されるのかというあたりもお尋ねしたいんです。

令和７年から第３期の計画を走らせていく時に、もしかしたら、芦屋でトータルプランで行こうじゃないかっていう話が出てくる可能性もあるのかなと思ったりもしますので、よろしくお願いいたします。

事務局富田　ご指摘のとおり、子ども・若者計画は、現在、単体の計画となっております。第３期以降どうするかについては、市長部局と協議を行っているところです。

特に、市長部局の『子育て未来応援プラン「あしや」』との役割分担ということで、これまでも、妊娠期から乳幼児期にかけては、『子育て未来応援プラン「あしや」』で、その後の学童期以降を「子ども・若者計画」が照準を当てるような形でやっておりますので、そこの連携は、担当部署とも協議を行っているところです。

スケジュール的には、どちらも令和７年度から第３期の計画がスタートするのですが、今

は、計画を一緒にするというよりは、引き続き、それぞれの計画の連動、連携を深めつつ、それぞれの計画を個別に作るという方向で進めております。

また、国の動向も踏まえて、今後も協議は続けていきたいと考えております。

渡部会長　あと１年半ぐらいで「子ども・若者計画」が作られていきますので、そのもう一つの計画と密に連携しながら、意思疎通しながら進めていただければと思います。

では、アンケートの説明もしていただいた後で、委員の皆様からご意見いただきたいと思いますので、少し早いですけど、アンケートの方に入っていきたいと思います。

事務局中嶌　（説明）

渡部会長　このアンケートを検討する作業が非常に重要ですので、少し時間を取ってできたらと思っています。

まず私の方から、１（３）に新しく入るところですね。「結婚していますか」ですが、先ほどの国の「こども未来戦略方針ＭＡＰ」でも結婚から入っていなくて、妊娠から入っているというのは、結婚というのが非常に多様になっているという前提があるからだと思うんですね。ですから、これは「パートナーと一緒に暮らしていますか」とするのか。「結婚していますか」でしたら、やや法的な、結婚という手続きも終えていますかみたいに取られてしまいますので、結婚はしていないんだけれどもパートナーと暮らしていますという方は答えてもらえなくなるように思うんです。まずは、この新設したところどうでしょうか。もうちょっと別の表現もありそうだなと思うんですが。

事務局富田　渡部会長がおっしゃったとおり、そこのところの配慮が、この設問では足りていないので、少し書き方を工夫したいと思います。

渡部会長　最終的には、業者さんが入って、業者さんの方でアンケート実施だと思うんですが。それが、何年の何月頃に実施の予定になっておりますでしょうか。

事務局富田　アンケート時期につきましては、今年の年末から年明けにかけて、一般の方のアンケートを実施します。年明けに、公立中学校の２年生のアンケートを実施する予定にしております。アンケートの実施や集計につきましては、５年前の計画策定時には、コンサルに一部委託をしていたんですが、今回は、アンケートの中身の作成、実施や集計までは、市の職員で実施をする予定になっております。

渡部会長　アンケートの分析は、次期の新しい委員の体制で進むと思いますので、アンケートの最終案が、新しい委員のもとで評価されて、実施されるのが望ましいと思います。

新しい委員の体制は、アンケートを年末から実施するのに間に合わせるようなイメージでしょうか。

事務局富田　本日のアンケートの案はあくまで事務局の叩き台で、一部変更させていただいているものですので、皆様からいろいろご意見をいただきまして、随時修正をしていきたいと考えております。

スケジュール的には、新しい任期での１回目の協議会を 11 月頃に開催を予定しておりまして、それまでに、事前に修正したアンケート案をお送りして、それをご覧いただいた上で、１回目の協議会で、再度アンケート内容をご協議いただき、修正を加えていくといった形で進めていきたいと考えております。

渡部会長　それでは、説明いただいた資料１、２と私の補足説明したもの、それとアンケートの案について、ご意見とご質問いただければと思います。

入江委員　アンケートで聞きたいのが、１（１）の性別のところなんですけども、やっぱり、性別を聞いた方がいいんでしょうか。２（８）のところでＬＧＢＴのことが書かれているので、女性・男性だけではなくて、性がない方もいらっしゃると思うので、この質問は要らないかもしれないなと思ったんですけれども、どうなんでしょうか。

事務局富田　ここを入れるかどうかはこちらも悩んでおるところです。今回のアンケートも、例えば、男性のうちこの質問に答えられた方、女性のうち、といった形で、クロス集計も行いたいと思っておりまして、そういった意味では、性別を知りたいというところがあります。

ただ、委員がおっしゃるとおり、それを設問にするのかどうか、聞くとしたらどう聞くのかというところは、正直悩んでいるところです。

渡部会長　他のアンケートを見ますと、今までどおり男性・女性とあって、回答しないという項目を設けているところもありますので。それも参考にされて、男性と女性を最初から全部外すというよりは、ある程度回答してくださったところで、クロス集計が取りたいということであれば、入れておいて、でもそれには回答したくないというお考えも尊重できるような形にしてみてはどうでしょうか？

竹内委員　私は地域の自治組織を代表して、委員として参加させていただいております。そこで地域として、若者や子ども達をどう支えていくかということで、いろんな議論を自治会でもしております。

具体的には、私どもの自治会では、自治組織を活性化させるためには、それを支えてもらう役員さんをどういう人にやってもらうかという。ここにも指摘されてるように、地域活動の担い手が高齢化したり、あるいは同じ人が10年も、長い人だと20年も。

そういうのが実態でしたので、そこを改革しようということで、私どもの自治会では班長さんを輪番制にしたところ、色んな意見が出てくるようになったので、これは良かったなと思っております。

やはり、地域と地域の住民、プラス子ども達をどう支えていくかということで、いろんな検討しながら、今進めているところです。そして、最終的には、芦屋で住んでよかった、住み続けたいというような地域づくりをしていこうということで、今、取り組んでいるところでございます。

渡部会長　アンケート項目で見ますと、地域との関係は、４（３）のところで、「学校や仕事以外の活動で参加したことがある、または参加したい活動がありましたら、あてはまるものに全て○をつけてください」という設問で位置付けられておりますけれども。地域活動を支えてくれる役員さんになっていただけるような、そういう項目が入れられるのか、検討課題かなと思います。

山田委員　資料の中で、「こども未来戦略方針ＭＡＰ」っていうのが、なかなか難しいところもあるかと思いますけど、いつの日か全国に広まれば、すごくいいなと思いました。

アンケートについてなんですけど、これは、どういうふうに配るんですか。ちょっとごちゃごちゃしすぎて分かりにくいなっていうのと、中学生と、一般と分かれてるんであれば、それぞれ分かれたターゲット用にアンケートを作って、それぞれに合ったものじゃないと、自分に関係なかったら、途中で嫌になるって思いました。

あと、４のひきこもりについて、本当にひきこもりの人が見たら、たぶんあんまり気分が良くないかなって思いますので、配慮が必要ではというのもあったり、その親御さん世代へ

のアンケートがないですけど、やっぱり、ひきこもりは家族の問題になると思うので、子ども自体のことを思うんであれば、親のアンケートみたいなのも、少しあってもいいのかなって思うのと、このアンケート自体も少し綺麗に整理して、何かあっち行ったりこっち行ったりみたいにも見て取れるので、きちんと、どの人に何を答えてもらいたいか、分かりやすくした方が、答える側も答えやすいのではと思いました。

事務局富田　アンケートについてですが、５年前の計画策定時と同じ方法を考えております。

一つは、市内の公立中学校の２年生全員にアンケートを実施すると。こちらは、前回は紙で配布したんですが、現在学校にタブレットが配布されておりますので、今回はタブレットで実施をしようと考えております。内容につきましては、今見ていただいてるアンケートが、一般向けのアンケートとなっておりまして、中学生の分は、そこから、中学生には関係ない部分を除いたり、少し追加したりという形で考えております。

もう一つは、この「子ども・若者計画」のターゲットにしております15歳から39歳までの方を対象にしたアンケートになっておりまして、抽出する形で、約3,000件の方に郵送でアンケート依頼をかけたいと思っております。回答の方法としては、こちらも前回は紙だったんですが、今回は紙も送るんですが、同時にＱＲコードを付けまして、スマートフォンや、インターネット経由で電子でも回答できるような、どちらでもできるという形をとりまして、できるだけ回答率を上げたいと考えております。

一般のアンケート項目ですが、15歳から39歳までを対象にしておりますので、学生の方もおられれば、社会人の方もおられる。場合によっては子育て中の方もおられるということで、年齢層が幅広いので、いろんな状況の方がおられますので、どうしても、それらの方々に対するアンケートなので、いろいろ聞くような形になっておりまして、山田委員がおっしゃるとおり、あっち行ったりこっち行ったり、といいますか、いろいろ聞いてる内容になっているところはあるかと思います。

渡部会長　「こども未来戦略方針ＭＡＰ」についてですが、これは国が考えている、今後３年間で急いで進めたい項目になっていますが、自治体によっては、もう先取りして実施しているところもあるんです。ですから、前回も示しましたけれども、妊娠から高校、大学、大学院までありますけれども、芦屋としてどのような支援・施策が打たれているのか。こういったＭＡＰを示してみるのも大切だと思います。

芦屋の場合は、乳幼児期から児童期まで割と力を入れて支援されております。せいぜい広がって義務教育段階までというところですので、芦屋に住んでいる高校生、大学生、大学院生、または、芦屋にあるそういう教育機関に通ってる人たちにどういう施策があるのかというのは、あまり連続して示されておりません。ですから、ぜひ芦屋でも、このＭＡＰとか、前回説明しました他の自治体でやってるような、小さい頃から思春期、青年期まで切れ目のない支援の一覧表のようなものができると良いのではないでしょうか。

中谷委員　私は、５年前のアンケート調査の時にもおりましたが、アンケートの内容を見ましたら、５年間でどの世代も置かれている立場が、加速度的に変化しているなと感じております。

アンケートに関しては、すごく言葉のご配慮があるなと感じております。一つ気になったのが、４（１）の６ですね。ひきこもりに関するところなんですが、ひきこもりって本人が感じてるのかなと思うんです。自分はひきこもりだと思ってる人と、いやそうではないという人と、捉え方が違うんじゃないかと思って。この設問で、それが分かるんじゃないかなと。

その人の捉え方とかで、判断ができるんじゃないかなと思いました。

事務局富田　４（１）の６以降の質問につきましては、おっしゃっていただいたとおり、聞き方はさらに検討したいと思っております。今回のアンケートの中で、芦屋の実態というか、今の芦屋の現状をできるだけ把握したいというのと、それをまた計画に反映していきたいというのもございますので、この設問が、回答される方にどう思われるかといったところも考えながら、より答えやすい、なおかつ、こちらが欲しい回答が頂けるような項目になるように、検討していきたいと思います。

渡部会長　４（１）のところは、レベル分けでいきますと、「定期的に外出する」、「遊びや用事で週に４回～５回外出する」、または「週に１回～２回外出する」、「人付き合いのため週に４回～５回外出する」、または「週に１回～２回外出する」、「外出は避けている」という表現ですね。

「避けている」というと、意志的な感じ、または、コロナがあるので、罹らないように外出していませんってとられてしまう可能性もあります。

先ほど、中学２年生は学校を通じて配布するとなっていましたけれども、例えば、不登校の子どもさんも、その配布対象になって、自宅に届けられるみたいなイメージでしょうか。

事務局富田　中学生のアンケートにつきましては、不登校というか、学校をお休みされている子どもさんへの対応っていうのが、５年前の前回のアンケートのときにも話題になりました。そういった方にも、アンケートには回答していただきたいと思っております。

今、予定しておりますのが、各中学校に、お休みされている方には紙のアンケートを作って、返信用封筒を付けて、お渡しいただくような方法が取れればというふうに考えております。

渡部会長　Web 上で回答していただくというのであれば、不登校の方が自宅で Web を使っておられれば、封筒でなくても Web 上でご協力いただけるかもしれないですね。そのあたり、中学校サイドと相談して、少し詰めてみてください。

大石委員さんどうでしょうか。中学校の校長ということもありますので、アンケートの配布の方法等、何かございますか。

大石委員　不登校の生徒に対してのアンケート回収の方法ですが、Web でも可能だと思われます。ただし、不登校生へアンケートを発信すべきかどうかは、それぞれのケースがありますので、全員に回答を求めることができるかどうかは、各校で検討させてください。

あと、この内容の中で、いくつかを中学校でアンケートにされるという理解でよろしいでしょうか。

事務局富田　学校をお休みされている生徒の方は、当然、アンケートに回答しないという選択肢もありますので、そこはそういったことも踏まえて、可能な範囲でご協力をお願いしたいと考えております。中学生に実施予定のアンケートの項目につきましては、今ご覧いただいてるのが一般向けなんですけども、ここから中学生が該当しない部分を除くとともに、中学生向けの項目を少し追加してと考えております。

大石委員　生徒指導連絡協議会を定期的に行っております。最近、特に気になることは、ヤングケアラーの問題もあるのですが、ネグレクトのことについても心配すべき報告が増えてきています。

ヤングケアラーの問題と同じように、本人自身がネグレクトに気づいていないケースがあ

ります。アンケート２（３）に、ネグレクトのことも触れていただきたいと要望します。あと、４ページの７（１）の６の「自殺したい、またはそれに近いことを考えたことがある」という、記載がされていますが、中学校だけでなく、小学校でもリストカットやオーバードーズの報告も増えてきています。「近いことを考えたことがある」ということに該当するのかもしれないですけど、詳しく実態を知りたいという思いはあります。

もう一点、３ページの６のインターネットに関する質問のところです。学校ではインターネットでのいじめの実態把握が難しく、対応に困っている状況です。誹謗中傷を書かれたということ以外に、ＬＩＮＥのグループを勝手に外されたということで、被害の相談が多くなっています。ネットトラブルの具体的な状況を是非知りたいと思います。

事務局富田　今のご指摘いただいた点、今後、中学生対象のアンケートを考えていく中で、取り入れていくように検討させていただきたいと思います。

渡部会長　特に、中学生版については、この協議会もありますけれども、中学校との連絡を密にして、内容を詰めていただきたいです。中学生版というのは前回実施したものがあるわけですけれども、それに今回のような赤字が入ったものっていうのは、一応あるんでしょうか、それはこれから作っていくような感じでしょうか。

事務局富田　これからになっています。

渡部会長　赤字を入れて作成する段階から、ぜひ、中学校サイドと連絡を取りながら、よろしくお願いします。仮に、中学校２年生を全員対象にすると、概数で言うと何人が対象になるんでしょうか。

事務局富田　前回が 550 名でしたので、おそらくそれに近い人数になるかと考えております。

渡部会長　わかりました。

谷委員　資料２の「子ども・若者計画について（第１期と第２期の比較）」は、特に第２期の方ですかね。どうしても警察は防犯とかそういった目線で見てしまうんで、１（１）の社会的自立に向けた「生きる力」の育成とか、そういった新しい部分ですね。あとインターネット社会に生きる子ども達への支援とか、ＳＮＳのトラブルが多いんで、そういった項目も入れていただいてますし。かねてから私が言ってます、２（２）の⑤児童虐待防止対策の充実をちゃんと入れていただいてるなっていうことで、素晴らしいことだと思っております。

あと、アンケートについてなんですけど、私は、３ページの６の「インターネット・ＳＮＳについて」というところが非常に参考になるのかなと思っています。本日、参考までに「守りたい大切な自分　大切な誰か」というチラシをお持ちさせていただいたんですけども、なかなか数字ではお伝えできないところがありますが、肌感覚で、ＳＮＳでのトラブルが非常に多くて、女の子に限らず、男の子も、自分の裸の画像を送ってしまったとか、本当にあるので。警察の認知する被害相談っていうのは、氷山の一角なので、こういった項目があったら、全中学生が回答してもらえるんであれば、非常に参考になるのかなと思っております。

渡部会長　事務局の方、こういう資料も取り入れていただいて検討していただけますでしょうか。

事務局富田　今、谷委員からもご指摘いただきましたインターネットやＳＮＳのところは、大きな課題になっておりますので、項目としてはちょっと追加しておるんですけども、さらに実態がわかるような、項目の工夫があれば、お伺いしながら加えていくなりしていきたいと考えております。

田嶋委員　私は行政の立場ですので、委員さんのお話を聞いてる中で気になったのが、行政側が一番

陥りやすいのは、アンケートするときにあれもこれも聞きたくなるんです。

性別の関係につきましては、渡部会長もおっしゃっていただいたように、アンケートの取り方のところで、ここ最近、市から答えなくてもいいというような表現も、市民参画・協働推進課でアンケートの様式が決まっておりますので、そういった部分も統一させていただきたいと考えております。あと、この質問数がかなり多いと感じます。今の日本の社会の中で、各企業がいろんなアンケートをやってる中で、スマートフォンとかでアンケートの回答をするときには、かなり絞って質問するので、１回やるのに５分以内で答えられるような内容だと思うんです。

今回は、もちろん計画という中で、いろんな情報を聞きたいっていう、陥りやすい状況にはなってるんですけども、もう少し質問数を減らしたりっていうのは、前回と比べるために、前回聞いてることに対して今回もう１回聞いてどうだったかっていうのと、今の情勢に合わせるということで、だんだん質問数も増えていってしまいますので、ある程度減らすことも必要なのかなということで、先生のご意見もいただきながら、質問の内容については、もう少し質問数を減らさないとと思います。

先ほど、ご意見出ましたけど、途中でやめようかなって、送信ボタンの前に、やめちゃうっていう可能性もありますので。そういったところはもう一度中身を精査したいと思います。ひきこもり等につきましても、非常にナイーブな話になりますので、表現等につきましても、もう一度内部でも協議しながら、最後は先生の方にも確認しながら、調整していきたいと考えております。

渡部会長　増やすよりもむしろ精選して、５分程度で回答できるようなものができればいいなっていうことです。事務局なかなか大変ですけれども、また相談しながら進めてください。

山下副会長　最初に思ったのは、やっぱりアンケートとしてはちょっと盛りだくさんだなというのが率直なところで。多分半分ぐらいにしなければ駄目かな。半分でも多いかもしれません。そのときに、そもそもアンケートの狙いをどうするのかっていうのは考え直す必要があるかなと思いました。

本当はこの場で議論して、いろいろご意見頂いたらよかったのかなと思うんですけど。難しいようだったら、事務局にお任せしますので、良い形にしていただければと思います。ただ、いろいろ聞きたい気持ちも分からなくはなくて。そのときに、回収率との、要するにトレードオフになるので、回収率を上げたければ当然設問は絞った方がいいし、きめ細かく聞きたいっていうんだったら、たくさん聞いて、でも、回収率を上げる何か手立てをするということになると思います。

現場にご負担をかけるのは忍びないんですけど、中学生だとすごい真面目に答えてくださるので、それでお時間頂戴して大変恐縮なんですけど、もしご協力いただけるようだったら、中学校にご協力いただいて、学年も限っていいとは思うんですけれども、そこできちんと聞くべきことを聞くという感じかなという気もしました。

ちなみに、前回、前々回の回収率ってどれぐらいか分かりますか。その時に、おそらく中学生はすごく真面目に答えてくれて、回収率高いと思うんですよ。だから、おしなべての回収率というよりは、中学生と、それ以外とか、あるいは年齢層別の回収率みたいなのが分かればいいかなと思います。また、今回の目標の回収率はどれぐらいで設定されているのか。そういったところが分かれば教えていただきたいなと思いました。

事務局富田　前回の回収率ですが、公立中学校２年生の調査の回収率が90.2%で、非常に高くなっております。逆に、一般の調査の回収率は28.8%です。

山下副会長　３割近いんですね。

事務局富田　項目につきましては、非常に多いというのは事務局でも思っておりまして。前々回から前回と増えてまして、今回また足すと、さらに増えるというところで、絞り込もうということは、事務局でも話はしております。例えば、前回アンケートで聞いたけども、計画には特に触れられていないような項目は、思い切って削っていいんじゃないかと、そういった話は内部でもしておりまして。アンケート項目が多いと回収率にも影響が出てくるなというところで、悩みながら、思い切って削るところは削ってということでいきたいと思います。

回収率につきましては、特に一般の調査については、他のアンケートを拝見しますと、前回よりも今回の方が下がっているのをよく見るので、回収率を上げるのは非常に難しいとは思うんですが、できれば一般の調査で30%回収できるような内容に、方法にしていきたいなと考えております。

山下副会長　Web調査をすると回収率が上がるっていうのはちょっと私にはよく分からない。そういう情報・データを持っていないんで何とも言えないんですけど。一般的に考えたら、入りやすい調査はやめやすいので、クリックしてて、「次のページもあるの、もうええわ」ってやめるのが、結構普通かなと思うので、始めやすいものっていうことは結局やめやすいので、回収率は逆に下がる傾向があるんじゃないかなという気がしています。

第１回、第２回のアンケートでしたら、おそらく期待もあって答えてくださってる面があったりして、その場合、期待に応えられてないと、どうしても回収率って下がっていくので、そこをどうするかっていうこともあるかなとは思います。

だから、単に聞きっぱなしじゃなくて、「こんな成果が上がったんです」とか、あるいは「こういうことをもっと問題として考えていかなあかんのです」っていうような、尋ねる側の誠実さとか切実感がどれぐらい伝わるかって結構大事かなという気はしました。

中谷委員　このアンケートを、中学２年以外の方には、ピックアップしてランダムに送られるんですよね。そのアンケートの結果報告というのは、ランダムに選んで送った方に、また郵送か何かで送られますでしょうか。広報あしやか、例えば冊子でとか、どういう形で報告を、その送った方にされますでしょうか。

事務局富田　今のところは、一般のアンケートを回答された方に、何かしら結果を返すというところまでは考えておりません。

中谷委員　何かそういうものがきたら、そうかと思って、次に何かきたら興味を持たれるかなと思ったので。

渡部会長　前回のアンケート結果は、Webサイトで公開されているとか、例えばアンケートの最後のところに、芦屋市のWebサイトで何月頃に公開予定ですみたいなことが表記できるのですか。

事務局富田　前回、５年前のアンケートにつきましては、最終、アンケート結果の冊子は作成したんですが、ホームページとか、インターネットに公開するといったことは行っておりませんでした。

渡部会長　いろいろ集計結果を、市とか協議会で役立てるのはもちろんなんですが、どういうふうに市民に返していくのか、または協力していただいた人に見ていただくことができるのかというのも検討課題かもしれません。

それではちょっと予定より早いんですけれども、これで議事１と議事２とその他のところが終わりましたので、司会を事務局にお返しいたします。

事務局花尾　渡部会長、司会進行ありがとうございました。

それでは、閉会の挨拶を山下副会長からお願いしたいと思います。

山下副会長　本日もお忙しいところご参集いただき、また、熱心にご議論いただいて本当にありがとうございました。毎回すごく考えさせられることとか、勉強になること、たくさんありました。本日は、最初に紹介していただいた資料１の最後のところに、参考データがついてて、子どもの数は減っているのに、自殺者数、いじめ件数、児童虐待、不登校、全部すごく増えているという状況の中で、どうやったらいいのかっていうのは分からないんですけれども、１人１人が、自分事として捉えていく他ないのかなという気がしています。その中で、次期の計画も、ぜひ実効性のあるものが作っていけたらということを思いました。また今からご挨拶を頂戴すると思うんですが、任期を終えられる委員の方におかれましては、本当にありがとうございました。また別の機会にですね、様々にお力添えいただければと思っております。

事務局花尾　今回の開催で、青少年問題協議会の任期が満了となります。今回の任期でご勇退される委員の方が、４名いらっしゃいますので、お一人ずつご挨拶を頂きたいと思います。

竹内委員　短い間でしたけども、私自身こういう場に出席させていただいて、自ら勉強になることたくさんございました。この経験を活かして、また地域にしっかりと反映させていきたいなと、思っております。微力でしたけど、短い間、本当にお世話になりました。今後ともよろしくお願いします。

進藤委員　皆さん色々とお世話になりました。芦屋市保護司会の会長になりまして、こういう会にも出席させていただいて、本当によく勉強させていただきました。知り得たことは、定例会に報告させていただきました。そうすると、皆さんやっぱりご存知ないことが多くて、「へえ！」とか「はあ！」とかって言ってね、皆さん驚かれます。

保護司会も定年になりましたので、新しく次期会長が、今度はこちらへ出席させていただいて、すごく活発なご意見お持ちですので、定例会にもいい報告をしていただければと思っております。本当に皆さんいろいろと勉強させていただきました。ありがとうございました。

中谷委員　私も約８年、色々と勉強させていただきました。ありがとうございました。コロナの影響も過ぎて、社会が加速度的に変化していく中、今、山下副会長がおっしゃったように、実行性のある計画を作っていくことを、ぜひぜひ願ってやみません。

私、２つの出会いで、すごく思ったことがありました。

一つは、上が役所で、下が図書館ていう建物の図書館に行ったことがあります。この夏休みに、お子さんがそこで自習して、夏休みの宿題をして、読書をされてました。そして、お昼休みに、役所に勤めてるお父さんが来て、一緒に役所の食堂でお食事をされてました。そのお子さんに聞いたら、お父さんは、次は３時におやつ食べようと言ってて、だから３時まで読書して待ってるっていうお子さんのお話を聞いたんです。すごく良い働き方だなと思ったんです。

もう１件は、今年ではないんですが、夏休みに、体育館が９時から始まるのに、８時30分に来て、１階の自動販売機の前にあったテーブルに眠たそうな顔したお子さんが、おやつとジュースを持っていてるんです。「どうしたの、こんな早くから」って言ったら、「お母さん

が仕事行くから、そこ行って、冷房効いてるから１日おりなさいって言われた」って言って、いてるんです。私、そのお子さんに「じゃあ、アサガオっていうお部屋があるから、一度そこ行って聞いてごらん。１日ここにおるのは大変だから」っていうお声掛けはしたんですが、親御さんもいろんな考え方で、これだけ差がある。

どちらが、子どもが大きくなってから良いかっていうのはちょっとわかりません。でもこれだけ差がある、教育と仕事の中で、良い青少年になっていただく計画って大変難しいなとは思いますが、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

事務局花尾　最後に、渡部会長よろしくお願いします。

渡部会長　皆さんありがとうございました。第２期の計画策定のときから関わらせていただきました。途中、コロナで会議が開催されないということがありましたが、事務局の工夫によって、オンラインでまず会議を始めて、そしてオンラインと対面の併用という形で進んできました。会長を引き受けて心掛けたことは、参加している皆さんに必ず一言は発言していただいて帰っていただこうということで、無理に指名のような形で順番に発言していただきました。

会議録を見るときに、参加した全ての方のお名前があって、発言が記録されていることを嬉しく拝見させていただきました。委員としては山下副会長に参加していただいて、心おきなく今回退任することができました。このような機会を頂きまして、芦屋市、芦屋市の関係の皆さんに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

事務局花尾　渡部会長ありがとうございました。それでは、福岡教育長よりお礼の言葉をお願いいたします。

福岡教育長　（挨拶）

事務局花尾　ありがとうございました。本日は皆様の活発なご意見のおかげで、非常に有意義な会議となりました。長時間誠にありがとうございました。今回の任期で、ご勇退される委員の皆様、本当にありがとうございました。これにて、令和５年度第２回芦屋市青少年問題協議会を終了いたします。